2. 2017年度までの活動成果

1 目標設定の考え方

【教育】 地域と連携して課題解決を目指す授業を充実させて学生に技法を身につけさせ、研究でより深く地域の課題に取り組むプロジェクト型の実学を実践させる。まず、シラバスで地域に関する学修を行う事を明示する。更に、地域志向授業科目の必修化、地域連携PBLの履修促進などカリキュラム改革を継続的に行い、継続的、体系的な地域連携教育カリキュラムを構築する。

【研究】 地元企業と連携して学生参画型の共同研究などを実施し、幅広い業種・業態の企業との連携を目指す。研究活動の促進を通して、地元経済に新たなビジネス需要を発掘するとともに、学生に対しては地元で働くことや中小企業に対する理解を深めることで人材供給・定着を図る。

【社会貢献】 地域での公開講座・ロボット製作教室、シンポジウム、ウェブサイト公開、出版などにより、知の公開を活発化すると同時に、地域企業を対象としたマッチングイベントによる知の交流を推進する。また、技術創生につながる地域連携プロジェクトの創生を図る。

達成目標の設定（平成25年度採択時）

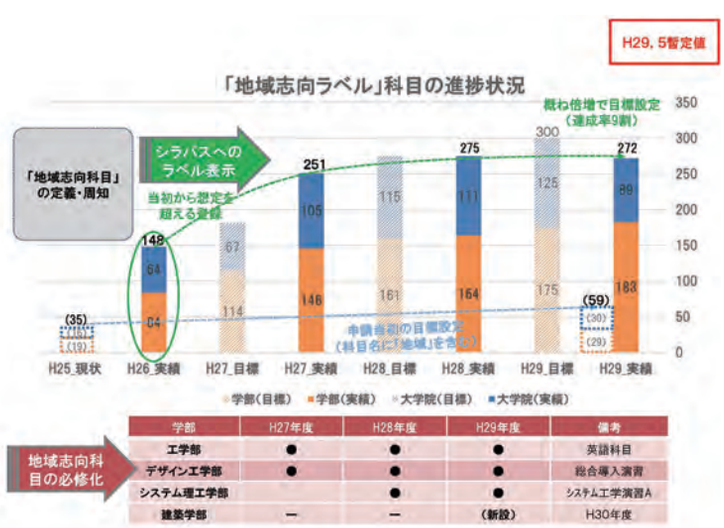
			（採択前）平成25年度	（補助事業終了時）平成29年度
教育	シラバスで地域に関する学修を行うことを明示する科目（科目名に「地域」の文言のあるもの）	大学院	16科目 年間履修者数：105名 授業満足度：81%	30科目 年間履修者数：300名 授業満足度：90%
		学部	19科目 年間履修者数：749名 授業満足度：76%	29科目 年間履修者数：1450名 授業満足度：90%
研究	地域との受託・共同研究実績		36件（約20%） 参加教員：36人	45件（約20%増）※年4%増 参加教員：46人
	地域産業における新規ビジネス需要		0件	3件（各地域で1件）
	地域企業への就職者数		東京都 大学院：293人 学部：520人 埼玉県 大学院：19人 学部：33人	5年間で10%増
社会貢献	知の公開（公開講座・セミナー）		59講座 教員数：33名（他外部講師30名）	70講座 教員数：50名（演習・実習型等拡大） ウェブサイト
	知の交流 地域企業対象 マッチングイベント	大学主催イベント	2回 教員：90名、学生：104名	3回
		地域主催イベント	10回 教員：18名、学生：23名	15回 市民活動交流コーナー・教室解放 連携ウェブサイト
	知の創生 技術イノベーション（地域連携PJ）		1PJ （さいたま市）	3PJ （さいたま市、江東区、港区）

2 目標の達成状況

教育 ～地域志向科目の全学的普及

●地域志向科目数は、2014年度当初は148科目（学部84科目・大学院64科目）であった。科目数を概ね倍増させる目標を設定した結果、2017年度は272科目（学部183科目・大学院89科目）となり、9割の達成率となった。

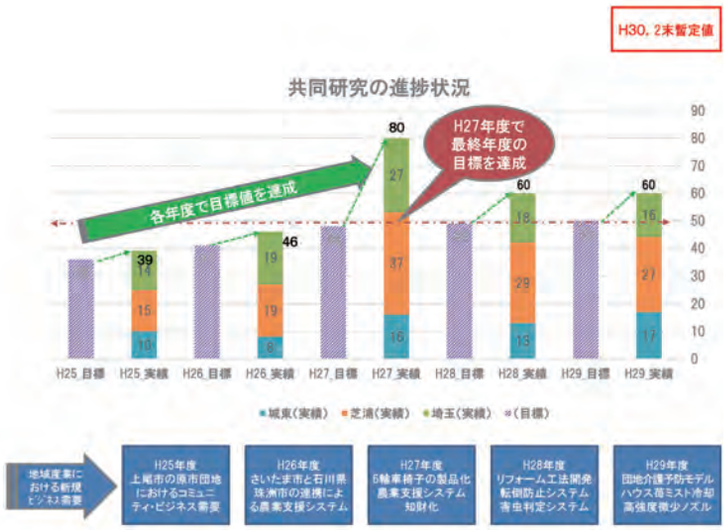
●地域志向科目の必修化については、2015年度に工学部、デザイン工学部で、2016年度にシステム理工学部を含む全学部で達成した。2017年度に新設された建築学部でも地域志向科目の必修化について調整を行っており、2018年度から全4学部での必修化体制を再構築する。



研究　～地域との共同研究・ビジネス需要

●城東地域（江東区・中央区）と芝浦地域（港区・中央区）、埼玉地域（さいたま市・その他埼玉県内市町村）における受託・共同研究件数は、2015年度には事業最終年度の設定目標50件を達成した。2016年度、2017年度とも60件で推移しており、地域との共同研究が定着してきた。

●2017年度でビジネス需要に結びついた研究としては、団地介護予防モデル、ハウス苺のミスト冷却効果の研究、内径基準・高強度微少ノズルなどが挙げられる。

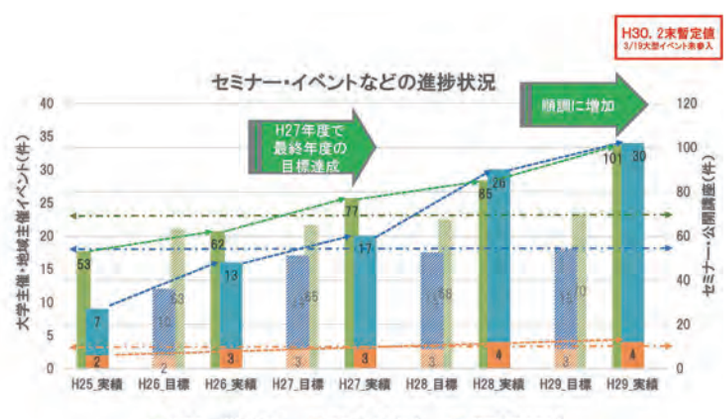


社会貢献　～セミナー・イベントなど

●知の公開：生涯学習やCOCプロジェクトによる公開講座・セミナーなどは、2015年度には、当初目標の70件を上回る85件に達し、その後も順調に推移して2017年度には101件となり、当初目標を大幅に上回った。

●地の交流：大学主催イベントとしては、「地域共創シンポジウム」「COC学生成果報告会」を定着させた。2017年度は更に、大宮および芝浦キャンパスにおいてマッチング・展示イベントを開催しており、キャンパスや学部といった単位でも、地域に対して研究成果を公開する文化が定着しつつある。

●知の創生：技術創生につながる地域連携プロジェクトとして、ロボットネットワーク実証実験、持ち運び可能折りたたみ自転車、交通事故削減対策の研究を実施した。



3 学生アンケートの実施

本学では、全学生（１年次を除く）を対象として文部科学省統一指標によるアンケートを年度末に実施している。また、COCプロジェクト参加学生の成長度合い計測を目的として本学独自指標によるアンケートを実施している。

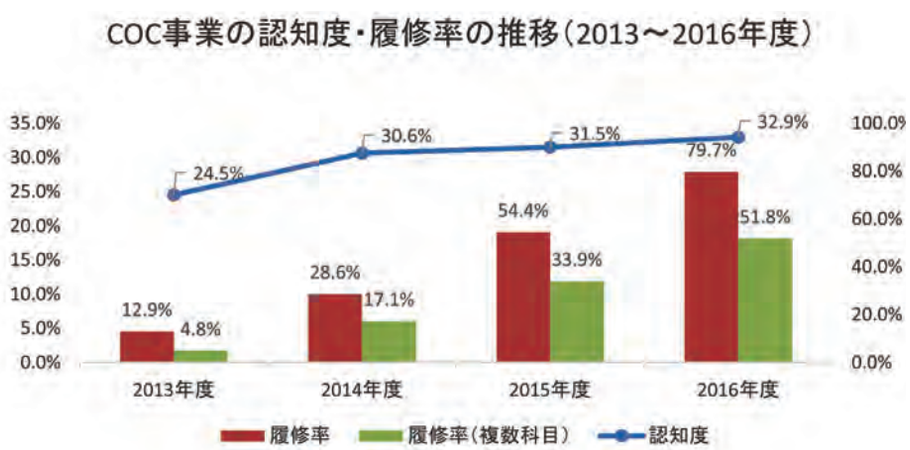
文科省統一指標アンケート（全学生対象）

大学COC事業の全学的な普及度合いや効果を計測することを目的としている。年度初めの学生ガイダンス時にコーディネーターが事業概要を説明し、学生が回答する形式としており、大学COC事業の普及の場にもなっている。

2013年度の事業当初から2016年度末時点において、大学COC事業の認知度は24.5%から32.9%に、地域志向科目の履修率は12.9%から79.7%に（うち複数科目の履修率は4.8%から51.8%に）向上した。

※2017年度末のアンケートは、2018年3月末～４月上旬のガイダンス時に実施予定。

【文科省統一指標（簡略化）】
1. あなたの出身について
2. 「地域のための大学」として地域連携の取り組みを推進していることを知っているか
3. 「地域のための大学」として実施する授業科目などを受講したことがあるか
4. 受講した結果、課題を含めた地域の現状を把握するとともに、地域の課題解決に役立つ知識・理解・能力は深まったか
5. 受講が、大学のある地域の企業や自治体などに就職しようとするきっかけになったか
6. 知識・理解・能力を今後どのように活かしていきたいか

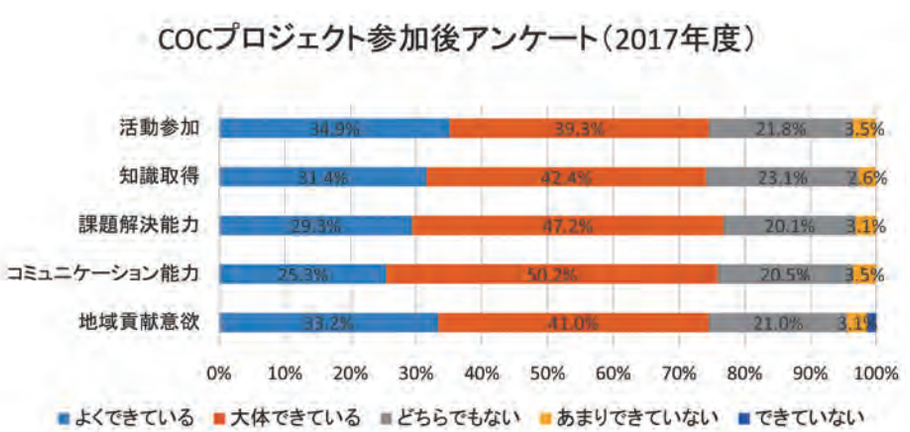


本学独自指標アンケート（COC参加学生対象）

COCプロジェクトに参加した学生に対して、自身の成長度合いを評価することを目的としている。各項目とも年度に応じて結果が向上しており、地域志向科目やプロジェクト活動が自身の成長に寄与していると学生が実感している。なお、各項目の相関係数は0.4 ～ 0.6台であり、これらの能力は相互に連関している。また、課題解決能力とコミュニケーション能力の相関が最も高く、実践的な能力開発につながっていると思われる。

【アンケート設問】
1. COC活動への積極的参加
2. 知識の習得度合
3. 課題解決能力の向上
4. コミュニケーション能力（プレゼン能力）の向上
5. 履修後・参加後の地域貢献への意欲の向上

※「よくできている」～「できていない」の５段階評価
※2017年度　N=229



4 2017年度COCプロジェクト

No.	プロジェクト名	2013	2014	2015	2016	2017	江東区	港区	さいたま市	埼玉県
01	ロボット技術による見守り・健康支援等スマートタウン構築	●	●	●	●	●	●			●
02	木材業者との連携による居住環境の改善	●	●	●	●	●	●			
03	内部河川・運河の活用とコミュニティ強化	●	●	●	●	●	●	●	●	
04	都心の災害を考えるワークショップ実施と展覧会の開催				●	●		●		
05	芝浦アーバンデザイン・スクール	●	●	●	●	●		●	●	
06	まちづくりコラボレーション ～さいたまプロジェクト	●	●	●	●	●			●	●
07	低炭素パーソナルモビリティと移動情報ネットワークサービスの開発	●	●	●	●	●			●	●
08	システム思考を用いた地域間連携型農業支援		●	●	●	●			●	●
09	機械系ものづくり産業地域との連携による技術イノベーション創出のための実践教育		●	●	●	●				●
10	地域課題解決思考を通じた土木技術アクティブラーニング		●	●	●	●	●	●		●
11	気候変動と地震災害に適応したレジリエントな地域環境システム			●	●	●	●		●	●
12	ものづくり中小・大手メーカーとのマイクロテクスチュア技術教育			●	●	●		●		
13	東京臨海地域における安心安全の都市づくりを推進するロードマップの作成			●	●	●	●			
14	インバウンドビジネスを創出するグローバル・ローカリゼーション			●	●	●			●	
15	地域コミュニティにおける生活コミュニケーション活性化技術			●	●	●			●	
16	豊洲、大宮地区の車載センサを応用した交通安全対策活動				●	●	●		●	
17	豊洲ユニバーサルデザイン探検隊				●	●	●			
18	学生のサポートを生かしたロコモ予防のためのシニア向け運動教室					●			●	

PROJECT 01

PROJECT 02

PROJECT 03

PROJECT 04

PROJECT 05

PROJECT 06

PROJECT 07

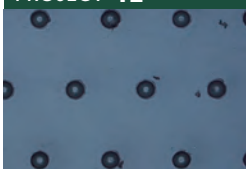
PROJECT 08

PROJECT 09

PROJECT 10

PROJECT 11

PROJECT 12



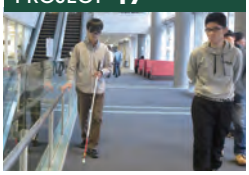
PROJECT 13

PROJECT 14

PROJECT 15

PROJECT 16

PROJECT 17



PROJECT 18